

(電子メール施行)
農技 第 1444 号
令和 2 年 2 月 10 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報 第 5 号 を下記のとおり発表します。防除指導等の参考としてご活用下さい。

タマネギ本圃で、べと病の発生を確認しています。今後、さらに発病の増加が懸念されますので、圃場での発生状況を定期的に観察し、「全身感染株の抜き取り」と「薬剤防除」を徹底するようご指導願います。

令和元年度 病虫害発生予察防除情報 第 5 号
タマネギべと病の防除対策について

- | | |
|--------|------|
| 1 対象作物 | タマネギ |
| 2 病虫害名 | べと病 |
| 3 発生地域 | 県下全域 |

4 発生状況と今後の発生

令和 2 年 1 月 30 日に関係機関とともに実施した現地調査（極早生・早生品種対象）において、洲本市のタマネギ圃場（本圃）で全身感染株の初発生を確認した。また、2 月 7 日に無防除の発生予察圃場においても発生を確認している（発生株率：0.5%）。これは本病が多発した平成 28 年並の早い発生である。今冬は記録的な暖冬であるとともに降水量も多く（10 月～1 月：平年比 141%）、本病の感染に好適であったことがその原因と考えられる。

今後の天候は、近畿地方の 1 カ月予報によると、気温は高い確率が 80%、降水量は近畿太平洋側で多い確率が 40%と予想されており、本病の感染・蔓延に好適な条件（気温 15℃前後で曇雨天日が連続する）が多く出現する可能性があり、発病の増加が懸念される。

5 本病の特徴について

本病は卵菌類に属するべと病菌による病害であり、前年秋の苗床や圃場に残った卵胞子がタマネギに感染し、大部分が無病徴のまま越冬（潜伏期間）して春期に全身感染株（写真 1）として発病する。栽培圃場においては、全身感染株が感染源となって二次感染株（写真 2）が発生し、ひどい場合には葉が枯死する。発病は上記の感染に好適な条件が、1～2 日続く場合に助長される。好適条件において病勢の進展はきわめて速い。

6 防除対策について

- (1) 圃場の排水が悪いと発病を助長するので、明渠等排水対策を十分に行うこと。
- (2) 圃場を十分観察し、地域の防除暦や「タマネギベと病対策マニュアル（技術者版）」を活用して、全身感染株（写真1）の**完全な抜き取り**と**薬剤防除**を徹底すること。
- (3) 全身感染株の抜き取りに当たっては、本病の病徴は、圃場内で徐々に発現してくるため、茎葉が繁茂するまで定期的に（1週間に1回程度）抜き取りを行い、適正に処分すること。
- (4) 薬剤防除は、発病の有無にかかわらず、防除暦に従って必ず行う。なお、薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた薬液量とし、散布ムラの無いように丁寧に行うこと。
- (5) 本病は周辺に飛散し、感染を拡大するため防除対策は地域が一体となって行うこと。



写真1 越年罹病株（葉身が湾曲・黄化し、分生子を形成する）



写真2 二次感染株

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222